

■CIS各地報告

<タイー2>

日程	2014年12月14日(日)～12月27日(土)
場所	・OTC DAIHEN Asia Co., Ltd. ・カセサート大学
参加者	・大阪大学:工学研究科2名 外国部学部2名 ・カセサート大学:工学部大学院2名 人文学部日本語専攻2名
引率者	大阪大学4名

<概要>

課題は、「タイ+1」(タイ・プラス・ワン)とされ、実習企業側からの要望として提案されました。「タイ+1」とは、近年タイの経済成長による生産コストの上昇に伴い、日系製造企業の生産拠点が集中するタイに生産基盤を置きながらも近隣諸国への生産過程の一部を分散し、企業の競争力を維持する方針で、実習企業として最適な「タイ+1」の対象国を提示することが課題として与えられました。

課題が明確に設定されていたため、プログラム実施前の事前研修(日本)の時点である程度の情報収集・予備学習ができ、タイの学生も、課題について事前に周知され、予備学習をしていました。そのため、プログラム当初から課題を意識して実習に取り組むことができました。

また、文系理系両方の学生が取り組むことができる課題であり、すべての学生が自発的・積極的にそれぞれの得意分野を生かしグループ内で貢献をすることができました。

実習企業の具体的な活動とタイ国や近隣諸国との社会経済状況との関係を考察する必要がある課題であり、日系製造業についての知見とタイを中心とした東南アジア地域の現状についての知見の両方を学生が吸収することができ、「タイ+1」対象国として選択する国をめぐってグループ内でも様々な意見が出たため、最終的なプレゼンテーションでの結論を導き出すための議論が交わされ、様々な観点・価値観、様々な情報、様々な意見を調整し、一つの結論に至るという作業を日タイ、理系文系の学生が一緒になって主体的に行うことができました。

最終報告に関しては、実習企業の社長や幹部の方たちからも高い評価をいただき、プレゼンテーションのために収集した様々な情報・資料(プレゼンで使っていないもの

も含めて)を、後日実習企業の方に提出することとなりました。